

GAPというところ、アメリカの衣料品大手を思い浮かべる方もいるかもしれないが、農産物の海外市場では「グローバルGAP」という国際認証を保持していることが、輸出

# 5万トン時代へ

青森リンゴ輸出

39

戦略で有力な武器になっている。とGAPに認証されな

GAP (Good Agricultural Practice) と GAPは農業版ISO

は、直訳すると「良い農業の実践」で、具体的には①農産物の安全性②環境の保全③農作業安全

④農産物の品質向上⑤農業経営の改善⑥消費者の信頼確保の六つの柱で

合計234項目について、第三者にチェックさ

れ、基準をクリアしない

## 認証が輸入条件の国も

手主導で進められた仕組み。現在124カ国以上で17万件を超える認証件数となっている。



グローバルGAP取得者の中で顕著な功績を上げたとして、GAP大賞を受賞した五所川原農林高校の生徒ら＝9月、オランダ・アムステルダム(弘前大学GAP相談所の山野豊さん提供)

海外に農産物売り込みに行く際、その作物が安全、衛生面のみならず、環境や労働者福祉においても農家が最低限守るべきルールを順守した上で生産されたものであることを、GAP認定証が担保してくれる。

リンゴを輸出産業としているニュージーランドでは、リンゴ農家の98%がグローバルGAPを取得している。ヨーロッパ市場やインドネシアのようにグローバルGAP認証を輸入の条件としている国もある。

先の本県リンゴの主力輸出先は台湾、香港、中国で、また、GAPは輸入の条件にはなっていないが、競合産地のニュージーランド等のようにGAP産地が台頭してくると、日本産の競争力が弱くなる可能性がある。

昨年12月に五所川原農林高校のリンゴ園1・6畝でグローバルGAPの認証を得ている。地元

の農業高校でGAPが取得できた意義はとても大きい。プロのリンゴ農家は負けているわけにはいかない。

(県りんご輸出協会事務局長 深澤守)

※次回は1月17日に掲載します。

## グローバルGAP